

## 炎症性腸疾患に対する新薬の特集

### 第5弾 レクタブル®注腸フォーム

新薬特集第5弾は新しい注腸製剤である  
レクタブル®注腸フォームについて紹介します。



### 特徴

経口剤が届きにくい直腸・肛門部の炎症に薬剤を直接届けることのできる坐剤や注腸剤といった局所製剤は、潰瘍性大腸炎の治療にとって無くてはならない存在となっています。今回紹介するレクタブル®注腸フォームは海外で2006年に最初に発売され、2017年12月、日本でも新たに潰瘍性大腸炎の治療選択肢に追加されました。これまでの局所製剤とは、新規有効成分(ブデソニド)であること、フォーム(泡)剤であることの違いがあります。

#### 有効成分：ブデソニド

有効成分であるブデソニドは副腎皮質ステロイドの一種です。局所で強力な抗炎症作用を示す一方で、体内に吸収されると速やかに肝臓で分解されるため全身性の副作用が少ないという特徴があり、局所製剤に適した成分です。本特集の第二弾で紹介したクローン病の治療薬「ゼンタコート®カプセル」と同じ成分ですので、「新薬の特集第2弾 ゼンタコート®カプセル」もご参照ください。

#### フォーム(泡)剤

局所製剤としてこれまでに無い新しい剤形です。坐剤と比べ広範囲に薬剤を届けることができ、液体の注腸と比べ漏れにくいといった特徴があります。また、従来の注腸と比べ製品が小さく、保管や携帯にも優れた製剤といえます。

### 用法用量と注意点

通常、成人の患者様では1回あたり1プッシュ(ブデソニドとして2mg)、1日2回直腸内に噴射します。副作用が軽減されたステロイド剤ですが、長期に漫然とした使用はせず、数週～数か月程度の使用に留めます。製品1本あたり14回分(1日2回投与の場合7日分)となっています。

前述のように使用方法は特徴的であり、しっかりと手技を覚える必要があります。①冷たいままだと薬剤の流動性が悪いため、使用前に容器を手などで温めること、②市販のシェービングクリームなどと違い、容器を押した時ではなく、容器を一度押して離れた時に泡が出ること、③ポンプドームと呼ばれる容器の頭の部分に一度薬剤を貯める必要があるため、必ず容器を逆さまにして押す必要があることが、失敗しやすいポイントと考えられます。しかし、実際にレクタブル®注腸フォームが導入された患者様からは、慣れてしまえば従来の注腸よりも簡単という感想も聞かれています。詳細はEAファーマの製品ホームページ(<http://www.rectabul-eapharma.jp/>)などを参照ください。

今後も新しい作用機序を持つ薬剤の発売が予定されています。本特集で引き続き紹介していきます。(文責：薬剤部 八木澤 啓司)